



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB
藤枝南ロータリークラブ会報

2017-2018年度 R1テーマ
ロータリー:

変化をもたらす



例 会：毎週金曜日小杉苑
藤枝市青木2-35-30 TEL:054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL:054-647-2300
E-mail: club1991@fujieda-rotary.org FAX:054-647-2040

会長：江崎 直利 副会長：飯田 敏之
幹事：桑原 茂 副幹事：漆畑 雄一郎

第1258回

♪ソング…四つのテスト・雪山賛歌
♪ソングリーダー…加藤 智之君

通常例会 / 小杉苑



会長報告

2008.8.8



副会長報告

飯田 敏之君

皆さんこんにちは。
今週も江崎会長の代行を務めさせていただきます。

今週に入り今季最強の寒気団がシベリアから南下しております。

数十年に一度のマイナス42度という、温暖な地域に住む私たちにも想像がつかないスーパー寒気団です。

いつもなら、2月4日の立春を迎えればそろそろ春の訪れが感じられる時期ですが、今年はそうもいかないようで 週末は一時寒さが緩みますがもう一度 寒波を味わうことになるようです。乾燥した空気の中では インフルエンザ等も大活躍してしまいます。

皆さんの会社・ご自宅においても十分な湿度を保つようご注意ください。

先日、桑原幹事と会長幹事会に出席してきました。その中で 福島ガバナー補佐が 2月18日の第5分区の IM の参加のお願いが再度ありましたので、出席者は日程の調整、お間違い無いようお願いいたします。

以上、会長代行のご挨拶とさせていただきます。

幹事報告

桑原 茂君

- ・ロータリーグッズのカatalogが届きました。事務局に保管してあります。

■ 出席報告

古川 賢吾君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
37/47 78.72%	38/47 80.85%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○伊藤恒君 ○江崎君 ○鈴木照君 ○内藤君
○藪崎君 小林君 佐野裕君 玉木君
川口君

(2)メイクアップ者

小池 吉久君(榛南) 古川 賢吾君(榛南)

■ ビジター

松葉 隆夫君(藤枝)

■ スマイルBOX

鈴木 寿幸君

- ・妻の誕生日プレゼントありがとうございます。
ご機嫌な妻を見るとホッとする今日この頃です。
加藤 智之君
- ・昔1月15日に結婚しました。夢のようです。
内山 淑夫君
- ・誕生日プレゼントありがとうございます。
1/13で満66歳になりました。村松 章隆君
- ・誕生日プレゼントありがとうございます。
67才になりました。後何年生きているのかな？
池ヶ谷 勇君
- ・皆様こんにちは。大寒は過ぎましたが、ここ数日、
本当に寒い日が続いています。会員の皆さま
どうかご自愛ください。桑原 繁君

スマイル累計額 384,200円

■ 会員卓話

植田 裕明君



◎雅楽とは？

雅楽は、平安時代に集大成された、器楽、声楽、舞踊を伴ったわが国の古典総合芸術をいいます。といっても純粋な日本生まれではなく、楽曲の大半は、アジア各地で生まれたものを源としています。いまからおよそ1400年前、飛鳥時代のころから、日本には仏教や大陸の文化とともに、中国、インド、ベトナム、朝鮮半島などの音楽や舞踊が次々と輸入されました。

これらの音楽や舞はもっぱら、宗教儀式や宮中の行事などに用いられ、時を重ねるに従って、徐々に日本風にアレンジされ、およそ平安期に整えられました。

この、もと外来音楽(中国大陸から伝えられたとされる唐楽(とうがく)・朝鮮半島を経て伝えられたとされる高麗楽(こまがく))、日本古来の音楽(国風歌舞(くにぶりのうたまい))、そして平安時代に日本でできた歌(謡物(うたいもの))の3つを合わせた総称を「雅楽」と呼んでいます。

◎雅楽の演奏形態

雅楽には、「管絃(かんげん)」「舞楽(ぶがく)」「謡い物(うたいもの)」の3つの演奏形態に分けられます。

【管絃】:純粋な器楽曲で、もともと基本的な演奏形態です。三管三鼓両絃といわれる3つの管楽器、3つの打楽器、2つの絃楽器で演奏されます

三管:鳳笙(ほうしょう)・箏(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)

三鼓:鞆鼓(かつこ)・太鼓・鉦鼓(しょうこ)

両絃:箏・琵琶

ちなみに、オーケストラを管絃楽と訳したのは、「管絃」に由来します。



【舞楽】：器楽による演奏にのって、一人または複数の舞人が舞う舞曲をいいます。伴奏となる楽曲は、中国大陸から伝えられたとされる唐楽（とうがく）と、朝鮮半島を経て伝えられたとされる高麗楽（こまがく）とがあります。通常、箏・琵琶の両絃を外し、三管三鼓によって奏され、楽曲が高麗楽の場合、鳳笙を外し、龍笛の代わりに高麗笛（こまぶえ）を、鞆鼓に代わって三の鼓（さんのつづみ）が用いられます

舞楽は「左方の舞（左舞）」と「右方の舞（右舞）」という左右対照的な形をとっており、これを「番舞（つがいまい）」といいます。左方は舞人が舞台向かって左から入退場し、右方は右から入退場します。

通常、左方は、伴奏には唐楽が用いられ、赤色系統の装束で舞われ、右方は多少の例外を除き、伴奏には高麗楽が用いられ、緑色系統の装束を着します。

また舞振りの違いによって、複数の舞人が優雅に舞う「平舞（ひらまい）」と、仮面を付け、1人または2人で勇壮に舞う「走舞（はしりまい）」とに分けられます。

さらに、舞人の違いにより、文人が舞う「文舞（ぶんのまい）」と、武人が舞う「武舞（ぶのまい）」、子どもが舞う「童舞（わらべまい）」とがあります。

1人または2人で舞われる「走舞」は、ほとんどが仮面をつけ、桴等を手に勇壮華麗に舞われます。

【謡い物】：平安貴族は、雅楽の伴奏で、和歌を歌い、漢詩を吟ずるという優雅な遊びに興じていました。前者が催馬楽（さいばら）、後者を朗詠（ろうえい）と称しています。

催馬楽は、最盛期には60数曲にのぼるとされていますが、現在では6曲が残されているに過ぎません。民間雅楽団体で、復元が行われています。歌詞は様々で、古今和歌集にある和歌もあれば、民間の戯れ歌もあり、中には「力なき蝦（かえる）骨なき蚯蚓（みみず）」といった歌詞もあります。

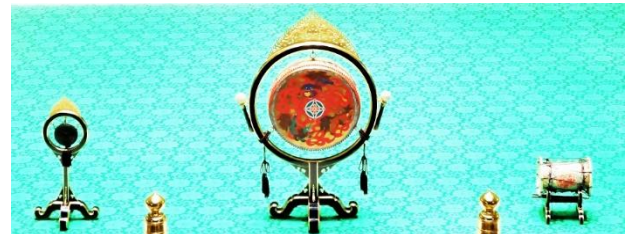
朗詠は、和漢朗詠集から選ばれた15曲が現在、残されています。催馬楽の伴奏が、三管・両絃であるのに対して、朗詠では、三管に限られます。3部形式となっており、それぞれ「一の句」「二の句」「三の句」に分かれています。

◎意外と身近な雅楽の世界～語源をさぐる～

雅楽というと、どうしても堅苦しいイメージ、一般の生活からとはかけ離れた「麻呂の世界」と感じられますが、普段なにげなく使っている言葉の中に、雅楽を語源とする言葉が結構、たくさんあり、生活に密着した世界がみえます。

【二の句が継げない】：「朗詠」の説明で、一の句・二の句・三の句の三部形式に分かれていると解説しましたが、「二の句」はたいへん高音域で、非常に歌いづらい形となっております。言葉が続かなくなることを「二の句が継げない」と申しますが、これは「朗詠」に由来する言葉です。

【打ち合わせ】：鞆鼓・太鼓・鉦鼓は、楽曲のテンポ、リズムを司り、舞楽では、舞人との阿吽の呼吸を合わせる重要な役割を持っています。特に鞆鼓の奏者は楽頭（がくとう）といって、指揮者に当たる役目があります。あらかじめ、打つ箇所を確かめ合ったことから「打ち合わせ」という言葉がうまれました。



【音頭】：各楽器の主奏者（パートリーダー）を音頭といいます。また、すべての楽曲は龍笛の独奏で始まることから、その演奏部分、奏者を特に音頭を取るということから、頭取とも申します。

【野暮】：鳳笙は17本のうち15本の竹管に金属製の簧（した：リード）を振動させて音を出す和音楽器です。すべての竹管に名前がありますが、簧がない2本は装飾品となっています。この2本を「也（や）毛（もう）」といい、これを鳴らすのは無粋なことということから、野暮の語源となりました。

【こつ】：物事の勘どころや要領を「コツをつかむ」と申しますが、これも鳳笙の竹管「乞（こつ）」という

音ですが、この「乞」はとても出しにくいことから、その言葉が出たとも言われています。

【千秋楽】：雅楽の管絃曲名で、舞はありません。舞楽法会の最後に演奏されたことから、相撲や興業の最終日を指す言葉となりました。

【太平楽】：舞楽の武の舞を代表する楽曲名です。古代中国の武将を象った装束・武器をまとい、勇壮華麗に舞う4人舞で、大嘗祭の際、必ず演じられた非常にめでたい楽曲です。背中を納める胡録(やなぐい)の矢が反対で、射られないことから、平和の象徴とされています。「天下太平楽」との言葉は、これに由来します。



【二の舞】：正しくは「案摩・二の舞」という2部構成の舞楽曲です。初めに「案摩」が舞われ、次に登場する「二の舞」は「案摩」をまねて舞いますが、しくじるところから、「二の舞を演じる」という言葉が生まれました。

【めったやたら】：太平楽の番い舞「陪臚(ばいろ)」という曲は、二拍子と三拍子の混合拍子の「八多羅(やたら)拍子」いう特殊な拍子で演奏されます。非常に演奏しにくく、未熟練者は演奏がバラバラになってしまうことから由来します。

【ろれつが回らない】：雅楽の旋法には、洋楽でいう長音階に当たる「呂(りょ)」と、短音階に当たる「律(りつ)」とがあり、それぞれの音階に基づいて演奏されます。

これがはっきりしないことから「りよりつ」がなまり、この言葉ができたといわれています。

【さまになる・うまい】：左方の舞である左舞、右方の舞である右舞から生まれた言葉です。

■ 今週の一言

高杉 光洋君

年齢を重ねると人の見た目は様々で、わかりにくい事が多いように思います。

他人様の親切で席など譲られるとなんだか悲しいときがあります。

過日、JR東海道線に乗りました、午前11時くらいで車内はがら空き状態 ドアを入れてすぐ左側の4人席くらいかな?の場所です。携帯電話が鳴り・・・もちろん車内ですから電話には出ず、メールにて「後程掛けなおします」と返信しておりました。

するとかなり離れた席に座っていた老人がツカツカとそばに寄ってきて私に

「車内は携帯電話禁止ですよ！」とご注意を確かに2~3回くらい連続して着信はありました。遠目に見て、電話をしているように見えたのかもかもしれませんが・・・

私なりにマナーは解っているつもりで 電話には出ないようにしていたので、ムカツとし、「何かご迷惑掛けましたか、車掌呼んで来いこの爺」と言いたかったのですが、そのご老人が「それここはシルバーシートですよ」と捨てゼリフこれが気に入りました、彼から見れば、私はシルバーシートに座る資格が無いとみてくれたんですね!

なんだか「嬉しい」・・・

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
2/2(金) 第1259回	会員卓話	理事会
2/9(金) 第1260回	国際奉仕委員会 担当	
2/16(金) 第1261回	会員卓話	
2/23(金) 第1262回	IM 報告	



まだまだ修業が足りん！



まさにRCのお手本！
大人の振る舞い！
おしゃれの達人！

(担当／杉浦君)